

2018年3月30日

## トヨタ・モビリティ基金、 「水素社会構築に向けた革新研究助成」において 10件の革新的研究への助成決定

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金(Toyota Mobility Foundation。以下「TMF」)は、「水素社会構築に向けた革新研究助成」において、2017年度は、以下の10件の研究への助成を決定しました。

2017年7月に創設した「水素社会構築に向けた革新研究助成」は、技術革新によるCO<sub>2</sub>フリー水素の低コスト化の早期実現に向けて、2025～2030年頃の実用化を目指す研究に助成するものです。2017年度は「水素製造」、「水素貯蔵・運搬」、「水素利用」、「エネルギーシステム」の4分野で公募を実施し、応募総数32件の中から、大学や公的研究機関等の水素およびエネルギー関連の有識者で構成する評価委員会での審査を経て決定しました。

### [2017年度の助成対象]

研究分野	研究内容	氏名	所属
水素製造	再エネ推定発電電力と水電解モデルによる水素製造システムの動的シミュレーション	小島 宏一	産業技術総合研究所
	光電気化学水分解反応における触媒/溶液界面構造の解明	佐藤 正寛	東京大学
	ステンレス鋼を水電解触媒として高機能化する革新的表面改質技術開発	轟 直人	東北大学
	プロトン導電性固体電解質デバイスのための空気極開発	松井 敏明	京都大学
	CO <sub>2</sub> フリー水素製造のための水電解用革新的酸化物系触媒の開発	松澤 幸一	横浜国立大学
水素貯蔵・運搬	水素の室温大量貯蔵を実現する多孔性高次構造の分子ダイナミクス描像に基づく解明と先導的デザイン	金 賢得	京都大学
	水素エネルギーキャリア合成の為に有機ハイドライド電解槽の高効率化	長澤 兼作	横浜国立大学
水素利用	多孔障壁を用いた高圧水素貯蔵設備における保安距離代替措置の検討	朝原 誠	岐阜大学
エネルギーシステム	空間情報を考慮した持続可能なCO <sub>2</sub> フリー水素供給システムの設計	古林 敬顕	東北大学
	再エネ電源とFCVを用いた電力・水素複合エネルギーシステム実現のための研究	吉岡 剛	東京大学

評価委員会の委員長を務める九州大学副学長の佐々木一成氏は、「本年度の助成対象となる研究は、水素エネルギーの本格普及に向けた重要な技術革新につながるものです。評価委員会は、今後も継続的な助言や議論を通じて研究者を支援していきます。TMFの助成によって、研究者の皆様が、評価委員や研究者同士による交流や議論の場を持つことで、広い視野を持ち、2050年の水素社会実現に貢献するリーダーとして活躍されることを期待しています。」と述べました。

TMF の豊田章男理事長(兼トヨタ自動車(株)代表取締役社長)は次のように述べました。

「環境に優しく持続可能なエネルギーの確保は、モビリティの分野においても重要な課題であり、再生可能エネルギーと組み合わせられた CO2 フリー水素は有力な選択肢の一つです。一方で、水素社会の実現に向けては、数多くの技術革新が必要であることから、研究を支援するために助成を開始しました。本活動には、佐々木先生や評価委員の皆様を始めとし、多くの方々からのご理解・ご支援いただき、改めて感謝を申し上げます。今後、5 年間の TMF 研究助成公募を通じ、評価委員の皆様と共に、技術革新へ挑戦する次世代の研究者を支援し、水素社会と、より良い社会の実現に貢献していきます。」

TMF は、2014 年 8 月の設立以来、豊かなモビリティ社会の実現とモビリティ格差の解消に貢献することを目的に、タイやベトナム、インド、ブラジルでの交通手段の多様化や、日本の中山間地域における移動の不自由を解消するプロジェクトへの助成のほか、障害者向けの補装具開発を支援するアイデアコンテストの実施など、世界のモビリティ分野における課題に取り組んでいます。

今後も、トヨタの技術・安全・環境に関する専門知識を活用しながら、大学や政府、NPO や調査研究機関等と連携し、都市部の交通課題の解消、パーソナル・モビリティ活用の拡大、次世代モビリティ開発に資する研究などの取り組みをすすめていきます。

(問い合わせ先)トヨタ・モビリティ基金 担当:男鹿谷  
TEL : 03-3817-9960 E-mail : info@toyota-mf.org